

# ひかりと いのちの なにかま

光寿院住職 酒生文弥

## がん宣告

昨年11月14日、排尿時に突然、赤ワインのような鮮血が出ました。さすがに驚いて翌日かかりつけの谷津保険病院泌尿器科を受診。「痛みはありませんか」「いいえ何も」では膀胱がんの可能性がありません。

「とうとう来たか」。亡父は、胃(60歳)・甲状腺(70歳)・直腸(77歳)と3回も進行がんを患っており、父方祖母は4回やっていますから、自分も早晚がんにかかることは想定内でした。

膀胱がんはともに大ファンだった俳優の松田優作さんと菅原文太さんの命を奪った悪性腫瘍です。反面、ボクシング世界チャンピ

オン竹原慎二選手やニュースキヤスターの小倉智昭さんのようにステージ4から復帰している方もいます。「カッコいい男性を襲う、がんだ」と笑い飛ばしながらも、転移の可能性は正直怖かったです。数日後、造影CTスキャンで転移は見つからず、ひとまず安堵しました。

## 免疫療法開始・入院・手術

近年、資金難で休眠に近い状態ですが、私は「NPO免疫療法懇談会」を20年近く主催しています。

1948年に故蓮見喜一郎先生が創始した日本初のがん免疫療法「ハスミワクチン(BSL48)」を起源とするがん免疫療法と統合医療を啓発・普及するNPOです。

旧友である蓮見健一郎先生にすぐ相談し、BSL48一般ワクチンを処方頂き、直ちに始めました。

免疫は細胞の軍隊組織であり、司令官である樹状細胞(DC)が敵(抗原)を認知し兵隊細胞(T細胞・B細胞等)に攻撃(排除)させます。DCの寿命が1週間程度なので、5日ごとに「がん抗原とマリグナールゼ(生理活性物質)の混合液」を皮

下に自己注射することで、司令官DCにそのがん抗原を攻撃させ続ける、という作用機序です。再発・転移の予防には定評のあるBSL48開始で一安心できました。

12月6日入院、7日に「経尿道的腫瘍切除手術」を受けました。開腹することなく尿道から内視鏡を入れて腫瘍を摘出する手術です。腰椎麻酔で痛みはほとんど感じず、2時間余りで成功。翌日、「経尿道的抗がん剤注入」を受けました。しかし、9日の午後、突然排尿がまったくできなくなりました。血栓が尿道を塞いでしまったのです。

点滴で保水しているだけに膀胱はパンパン、波状攻撃のように襲ってくる激しい排尿衝動で、七転八倒の苦しみです。

主治医は帰宅しており、看護師は「明日まで我慢してください」と冷たく言い放つばかり。体中に脂汗をかいて拷問のような苦しみ。あまりの有様について主治医に連絡してくれて、医療チームも病院に集合、夜の8時から2時間あまりの「経尿道的出血焼灼手術」が行われました。

耐え難い苦しみから解放してくださった見事なチーム医療。先端医療が行き届いた日本に生まれたことをこれほど感謝したことはありません。

### 死生観を深めてくれるがん

生死一如 Living is dying は心得ていましたが、がん患者は死に向って階段を一步踏み降りた視点をもちことになりました。

12月25日、手術で摘除した腫瘍の病理検査結果を主治医から言い渡される日でした。手術の際と同じく、叔母に付き添われて、「転移・筋層浸潤のみられない、比較的早期の悪性腫瘍」と告げられ、クリスマスプレゼントとしてはグッド・ニュースでした。

しかし膀胱がんの場合、再発率は7割を占めるため、再発予防治療として年明けから「膀胱内BCG注入療法」を週1回、計6〜8回行うことになりました。これも一種の免疫療法であり、抗がん剤でなくて本当に良かったのですが、やはり様々な副作用も懸念される治療です。1月5日には蓮見先生から「自家ワクチン(私自身

のがん細胞で作ったオーダーメイドのBSL48)も頂き、鬼に金棒の想いです。

がんは日本人死亡原因の3割以上を占め、心疾患・脳疾患とならぶ重大疾患です。しかし、がんが他の病気と一番異なる点は、「時間がある」ということです。どれほど末期であっても数カ月はあります。同時に、日々「死と向き合える」病気と言えます。

魂の永遠不滅、「主観的に死はない、往生あるのみ」を既に確信している私ですが、がんを得たい、「世に棲む日々」が有限であることをひとときわ痛感させて頂いております。がんを賜ったことは、僧侶として死生観を本当に深められる好機でした。

私の最大のメンターは松下幸之助塾長ですが、幸之助さんも病气や事故で3回あまり死線を越えたご経験があります。大病や大事故などで「命拾いしたときは、自分にはよくよく、強運がついている。使命があるんや。しっかりそう思わなあかんや」とよく言われていました。

7人の兄弟姉妹をみな30代くら

いで亡くされ、幼い一人息子に先立たれ、「愛別離苦」の多い人生を生かされぬき、あれほどの偉業の「道」を歩まれぬいた松下幸之助塾長。いまその警咳が魂に染み入ります。平成元年4月27日に「光雲院釋真幸」として94歳で大往生を遂げられました。

松下塾長が保証してくださったように、確かに私は「運命」に極めて恵まれています。しかし「魂願」に基づく使命のいくばくをもまだ成就していません。

また、恵まれた息子もまだ幼く妻も若い。生死に執着する気持ちはありませんが、まだまだしぶとく生かされてやるぞ、という奮起の想いは強まりました。がんに感謝しております。

### がんはまもなく克服される

日本はがん医療の最先端を走っています。ICVS東京クリニックのヒト由来治療型ワクチンは末期がんの8割を生還させています。つくば大・京大・北大などで開発・臨床実験が進む最先端の放射線療法であるホウ素中性子捕捉療法はランダムな全身照射で体内

のがん細胞を消滅させます。また小林先生がアメリカ国立衛生研究所と共同開発中の近赤外線光免疫療法は、事実上がんを征服します。

だからこそ、死病から蘇られて「本当の生」に目覚める人々がこの世にあふれ、A-R文明を地上のユートピアへと導いて行く「灯々無尽」となりませんことを心より深く念じております。

がんという風にそよいだ私の命の灯も、そうありたいと決意しています。

### 酒生文弥

- 1956年9月8日 福井市篠尾町 浄土真宗本願寺派浄福寺 (753年創建)に生まれる
- 1980年3月31日 早稲田大学 政治経済学部卒業
- 1982年3月31日 (勸)松下政経塾 (第1期生修了)
- 1987年3月31日 龍谷大学大学院博士後期課程修了(仏教学・比較宗教学)
- 同大学院から昭和59年9月〜昭和60年8月カリフォルニア大学大学院宗教学研究科へ文部省奨学生留学
- 1986年1月〜12月 ニュージャージー州立ラトガース大学大学院ヘロタリ奨学生留学
- 浄土真宗本願寺派 得度(僧籍) 教師(住職資格) 頭座 僧侶最高位
- 光寿院 [www.kojin.com/](http://www.kojin.com/)